

東浦町ごみの分別と減量をすすめる会会議録

会 議 名	令和6年度第1回東浦町ごみの分別と減量をすすめる会		
開 催 日 時	令和6年10月18日(金)午後1時30分から午後3時30分まで		
開 催 場 所	森岡コミュニティセンターホール（1階）		
出 席 者	推進員	阿知波 弘	（森岡連絡所長）
		梅村 良文	（森岡地区住民代表）
		二宮 邦子	（森岡台自治会長）
		赤尾 英美	（森岡台住民代表）
		内藤 明綱	（緒川連絡所長）
		野村 安雄	（緒川地区住民代表）
		広瀬 元光	（緒川新田連絡所長）
		川添 茂	（緒川新田地区住民代表）
		向山 恭憲	（東ヶ丘自治会長）
		牧野 修治	（東ヶ丘自治会住民代表）
		飯田 光晴	（石浜連絡所長）
		五十嵐 めぐみ	（石浜地区住民代表）
		石川 晃	（石浜中自治会長）
		神谷 信三	（石浜中自治会住民代表）
		山田 隆	（石浜西連絡所長）
		相木 一義	（石浜西地区住民代表）
		原田 正治	（生路連絡所長）
		小松 綾巳	（生路地区住民代表）
		竹内 元彦	（藤江連絡所長）
		江坂 晴	（藤江地区住民代表）
議 題	町出席者	原田 英治	（生活経済部長）
		畔上 智	（環境課長）
		久野 貴士	（環境衛生係長）
		北田 裕貴	（環境衛生係主事）
		森 美月	（環境衛生係主事）
議 題	1 令和5年度可燃ごみ・資源ごみ等の排出状況について		
	2 昨年度からの取組について		
	3 ごみの分け方・出し方ポスターの更新について		
	4 東浦町一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）の中間見直しについて		
傍 聴 者	0名		

会議内容

環境課長 開式のことば
傍聴者なしの報告
会議中の録音・写真撮影の了承

生活経済部長 参集御礼・あいさつ

環境課長 本会議の目的と概要説明。

座長選出

本会設置要綱第5条の規定により、座長選出を行う。

緒川連絡所長から生路連絡所長の推薦あり。生路連絡所長が座長として承認される。

座 長 みなさまにご協力いただいて、より良い会議にしていきたいので、ご協力をお願いしたい。

議事進行

議題1「令和5年度可燃ごみ・資源ごみ等の排出状況について」事務局から説明した。

資料1

・資料1-1では、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの収集量と資源ごみの地区別収集量について説明。

・資源泥棒の目撃が多々ある。目撃した際は、110 当番通報し役場環境課へ情報提供。

・資料1-2では、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、資源ごみの収集量のグラフについて説明。

・今後は、製品プラスチックやミックスペーパーの回収により、燃えるごみの減量につなげていく。

【主な質疑等】

推進員 住民が資源ごみの盗難に関して役場へ連絡するか悩んでいる。110 番通報に抵抗がある。

事務局 役場から警察への通報では動きが鈍くなることもあるため、住民から直接通報していただきたい。事例として、アルミ缶に GPS を仕込んで盗まれたことが発覚したが、町外で発見されたため、区域外だと警察の対応が遅いことがあった。

推進員 ごみの減少によって東部知多衛生組合への支払いも減るなど、何か住民としてのメリットがあるのか。

事務局 施設の運営費として負担金を支払っている。負担金の額は排出したごみの量に応じて変動する。ごみの量が減ると負担金も減るため、住民にもメリットがある。

推進員 有料化以前には住民の心配事や課題があったが、現在の推移については情報がない。住民はごみ有料化によって負担を感じているが、効果を十分に感じていない。行政はもっと住民に対して説明を行うと減量化も進むのではないか。

事務局 有料化を実施し、ごみの量は確実に減少したが、それにより税金が安くなるといったことはないため、住民には分かりにくかったかもしれない。

推進員 ごみ減量の現在の状況は、どう評価しているのか。

事務局 現在の1人1日あたりのごみの排出目標は、429 gです。有料化前の排出量は、約 500 gだったが、令和5年度の実績としては、448 gになっている。令和4年度と5年度では、20 g程減っている。

有料化の実施と回収する資源品目の増加により減量が進んでいると評価している。目標達成まであと 19 gのため、水切り等していただき目標達成に向けていきたい。

推進員 行政と住民が一体的に進めていくことでさらなる進展が期待されるため、もっとアピールしていただきたい。

事務局 住民に対して出前講座などは提供している。要望があれば地域に出向いて話をさせていただく。

議題2「昨年度からの取組について」事務局から説明した。

資料2

資源ごみの拠点回収、SAF（航空燃料）、インクカートリッジの回収、フードドライブ、メルカリ Shops を利用した粗大ごみのリユース及びおもちゃのリユース・リサイクルについて説明。

- ・資源ごみの拠点回収は、森岡コミュニティセンターの実績を報告。
- ・SAF は、今年度4月に締結した SAF に関する協定の報告及び廃食用油の回収実績と回収場所の説明。
- ・インクカートリッジの回収は、今年度6月から互換性インクカートリッジを含めた回収の案内と設置の検討について説明。
- ・フードドライブは、2022 年度からの実績について報告。
- ・メルカリ Shops は、今年度4月から開始した、メルカリ Shops を使用した粗大ごみのリユースについての案内と実績の報告。
- ・おもちゃのリユース・リサイクルは、今年度6月から開始した、プラスチック製おもちゃのリユース・リサイクルについての案内と、回収場所の案内、実績の報告。

【主な質疑等】

推進員 SAF での中部国際空港との協定の内容は。

事務局 廃食用油を航空機燃料に変えていくことと環境教育の協力についての内容となっている。

推進員 森岡コミュニティセンターでのプラスチックの回収が年間どれだけあり、増減しているのか教えていただきたい。

事務局 今年の1月から開始し、現在は、横ばいとなっている。役場の資源ステーションは、4月は少し増えたが現在は横ばいである。季節の変わり目や年度始めに排出されることが多い。

現在は、役場と森岡の2拠点のため、燃えるごみで出されているものを各地区で回収することで資源化することができる。

推進員 環境課で紹介のあったインクカートリッジの回収を行っている。コミュニティセンターの玄関の中に設置しているため、変な物を捨てる人はいない。いっぱいになったら宅配業者に連絡するだけでよいと、職員の手間なくやれている。

事務局 コミュニティセンター等にすでにインクカートリッジの回収箱を設置されていても、回収に来ずに置きっぱなしになっている場合は、設置団体に確認したうえで、撤去し環境課で紹介したものに更新していただきたい。

推進員 インクカートリッジは、未使用でも回収可能か。

事務局 回収可能だが、リサイクルされてしまう。フリマアプリ等でリユースしていただくのも選択肢の一つである。

議題3「ごみの分け方・出し方ポスターの更新について」事務局から説明した。

資料3

2025年に更新するごみの分け方出し方ポスターに合わせた、一部の分別方法の変更について説明。

- ・ミックスペーパーとして排出可能な品目数を増やす。
- ・びん類の分別を一つに統一。
- ・製品プラスチック、おもちゃの回収、メルカリのリユースについて追記。
- ・ポスター以外に、町公式LINEでも分別検索や排出場所の確認が可能。

【主な質疑等】

推進員 トイレットペーパーの芯はボール紙として出さないのか。

事務局 トイレットペーパーの芯は、今後ミックスペーパーとして皆様に分かりやすい分別方法にしていく。ボール紙として回収していたものは、ミックスペーパーとする。

推進員 ごみの分け方出し方のポスターを理解して出すことは、年配の方だと難しい。教育の一環で、小学生に教えて家庭に持って帰ってもらうことが非常に重要なことだと思う。

事務局 町内の1つの小学校では、毎年出前講座を行っている。

推進員 びんを1つにまとめる理由は。

事務局 回収業者に確認したところ、コンテナに看板を付けていても、ぐちゃぐち

やに出されているため、業者で分別作業をしている。なので、住民にとって出しやすいよう 1 つにする。

議題 4 「東浦町一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）の中間見直しについて」事務局から説明した。

資料 4

東浦町の一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）の中間見直しについての説明。

- ・環境基本計画の見直しに伴い、収集の方法や内容を変更。
- ・中間見直しによる変更点。

①食品ロス計画を新たに記載。

②有料化の際に策定した東浦町家庭系可燃ごみ減量化実施計画を今回の本計画に組み込んだ。

③ごみの減量を目標とする最終目標値を設定し、令和 12 年度に 1 人 1 日当たりのごみ量が 429g となるように目指す。

【主な質疑等】

推進員 計画では可燃ごみのことを言われているが、雑草の処理はどの様になっているのか。

事務局 雑草の処理は、可燃ごみとして家庭系と同様にカウントされる。雑草の搬入は、家庭系ごみとなるが、公共のごみとして持ち込んだ場合は、事業系ごみとして扱われる。雑草の資源化もあるが、膨大な費用がかかるため、町では慎重に検討している。まずは、草を乾かして重量を減らせることを周知していきたい。

推進員 たくさん草を抜くと満足感が高く、よく働いたと思ってごみ出ししている。その草のごみも可燃ごみとして換算されており、減量しないといけないうちに気づかされた。草をごみとして意識していなかった。

事務局 国の統計で草を省くことができないが、頑張って減量を推進していく。

推進員 食品ロスでの家庭系と事業系の目標値の考え方をご教示いただきたい。

事務局 ごみステーションから回収されたごみ袋の中を開けて、こういったものが

入っているか細かく調査する。食品ロスが何%、プラスチックが何%混ざっているという統計を取って、目標値を出している。

その他1 「生ごみの減量」について事務局から説明。

- ・生ごみの減量として、水切りの徹底と生ごみ処理機の推進が進められている。
- ・生ごみ処理機の貸し出し及び購入補助の再導入を検討。

【主な質疑等】

推進員 貸し出す生ごみ処理機の重量は。

事務局 約 12 kg。小型の物の導入も検討している。

閉会